

第2次新城市観光基本計画 中期アクションプラン 令和6年度～令和8年度

令和6年3月
新城市

目次

第1章	アクションプランの考え方	
1	第2次新城市観光基本計画 アクションプランの考え方	… 4
2	第2次新城市観光基本計画の期間	… 5
第2章	観光情勢	
1	観光情勢（国の動向）	… 7
2	観光情勢（県の動向）	… 8
3	観光情勢（新城市の状況）	… 9
第3章	基本方針と取組方向	
1	基本方針と取組方向	… 11
第4章	中期アクションプラン各戦略で取り組むプロジェクト	
1	基本方針1 観光まちづくりとテーマ別観光の推進	… 16
2	基本方針2 観光基盤設備の整備	… 37
3	基本方針3 観光推進体制の整理と連携強化	… 51
第5章	アクションプランの推進にあたって	
1	アクションプランの推進体制	…

第1章 アクションプランの考え方

1 第2次新城市観光基本計画アクションプランの考え方

目指す姿 「観光まちづくりによる新城ツーリズムの開拓」

第2次新城市総合計画 中期基本計画（令和5年3月策定）

重点戦略3 地域づくりに関わる人々（つながる市民）を増やします

目指すべき姿Ⅲ 活力にあふれた「まち」になっています

政策目標4 地域産業の振興で賑わいを創出します

施策3 地域資源を活かした観光戦略を進めます

第2次新城市総合計画で掲げた政策目標達成のため、観光分野から推進する計画が第2次新城市観光基本計画（以下「観光基本計画」という。）です。本アクションプランは、その具体的な事業内容を掲げるものとして位置付けます。

※新城ツーリズムとは

市民・地域・産業が資源を活用し、観光によるまちづくりを実践することで、交流・関係人口を増加させること。（第2次新城市観光基本計画より）

2 第2次新城市観光基本計画の期間

令和3年3月に策定した『第2次新城市観光基本計画』（計画期間：令和3年度～令和11年度）の目指す姿実現に向けて、前期、中期、後期に分けたアクションプランを策定し、3年ごとに具体的な事業計画を掲げます。

令和 元年度	第2次新城市総合計画 前期（R1年度～R4年度）			
令和 2 年度	第2期新城市まち・ひと・しごと創生 総合戦略（R2年度～R6年度）			
令和 3 年度		第2次新城市観光基本計画	前期アクションプラン （R3年度～R5年度）	
令和 4 年度				
令和 5 年度	第2次新城市総合計画 中期（R5年度～R8年度）			
令和 6 年度			中期アクションプラン （R6年度～R8年度）	
令和 7 年度	第3期新城市まち・ひと・しごと創生 総合戦略（R7年度～R12年度）			
令和 8 年度				
令和 9 年度	第2次新城市総合計画 後期（R9年度～R12年度）		後期アクションプラン （R9年度～R11年度）	
令和 10 年度				
令和 11 年度				
令和 12 年度				

第 2 章 觀光情勢

1 観光情勢（国の動向）

- 令和5年3月31日閣議決定された観光立国推進基本計画（第4次）（計画期間：令和5～7年度）

○観光はコロナ禍を経ても成長戦略の柱、地域活性化の切り札。

○コロナによる変化やコロナ前からの課題を踏まえ、我が国の観光を持続可能な形で復活させる。

○大阪・関西万博も開催される2025年に向け、「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」をキーワードに、「持続可能な観光地域づくり」「インバウンド回復」「国内交流拡大」に戦略的に取り組み、全国津々浦々に観光の恩恵を行きわたらせる。

とされており、インバウンド回復戦略はもちろんのことながら国内交流拡大についても言及されています。

・基本的な方針と主な施策

○「持続可能な観光地域づくり」

■観光地・観光産業の再生・高付加価値化

■観光DX、観光人材の育成・確保

■持続可能な観光地域づくりのための体制整備等

○「国内交流拡大戦略」

■国内需要喚起

■ワーケーション、第2のふるさとづくり

■国内旅行需要の平準化

○「インバウンド回復戦略」

■コンテンツ整備、受入環境整備

■高付加価値なインバウンドの誘致目指す2025年の姿

■アウトバウンド・国際相互交流の促進

・目指す2025年の姿

活力に満ちた地域社会の実現に向け、地域の社会・経済に好循環を生む「持続可能な観光地域づくり」が全国各地で進められ、観光の質の向上、観光産業の収益力・生産性の向上、交流人口・関係人口の拡大がコロナ前より進んだ形で観光が復活していることを目指す2025年の姿としています。

・参考

最新の観光庁予算概要（令和6年度）では、予算全体額約503億円に対し、主なところとしてインバウンド誘客の戦略的取り組みでは約440億円（前年度比約1.8倍）、ICT、DX関連の取組では約21億円（前年度比約2倍）が計上されています。

2 観光情勢（県の動向）

- ・ 愛知県では、「あいち観光戦略2024-2026(仮称)」(案)を策定し、観光振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図り、魅力ある活力に満ちた地域社会の実現及び県民生活の向上に寄与することにより、訪れる人(旅行者)、住む人(県民)、働く人(観光関連事業者)が満たされた状態(ウェルビーイング)を実現することを目的とし、目指すべき姿を下記のとおりとしています。

「さすが」と言いたくなる「観光県・あいち」

ー あいち「ツウ」リズム*2.0 ー 【革新・成長】 【持続可能】 【高付加価値】

- ・ 「東三河振興ビジョン2030」では、「広域観光エリアとしての魅力の向上・発信」として、マーケティング戦略によるプロモーションと効果的な受入体制の整備の推進、「食」・「花」・「炎」・「スポーツ」・「美・癒し」・「歴史」の6つを重点資源に、来訪者がSNS等で情報発信したくなる観光ブランドを創出するとともに、マイクロツーリズム、インバウンド観光、スポーツツーリズム等、来訪者の行動をストーリーとして考える等のターゲットに応じた誘客促進や、観光資源に応じた地域外との多様かつ広域的なネットワークを構築するとしています。

2 観光情勢（新都市の状況）

- 令和3年度に大型事業であった「桜淵公園再整備事業」を終えました。本市観光関連予算は、令和3年度の約553,302千円をピークに令和4年度は約278,663千円、令和5年度約285,680千円、令和6年度268,117千円と一様ではありませんが縮小傾向です。今後、新たな投資のための大幅な予算増加は本市における財政状況や社会情勢から難しい状況です。（※令和3、4年度は決算、令和5、6年は予算ベース）
- また、「桜淵公園再整備事業」を終えた以降も、観光関連予算におけるハード維持（施設管理等）の予算割合は毎年7割を超えており、新規の投資を行っていくには事業の見直しを行うとともに、観光協会等の稼ぐ力による観光振興への再投資をはじめ、地域一体となった「観光まちづくり」による地域経済の振興や地域の発展に努めなければなりません。
- 今後、令和8年度に開催されるアジア競技大会をはじめとした大型事業が控えています。このような新規事業やその他既存事業においても効果的な施策を実施するため、観光DXの推進等による観光施策の再検討をおこない、投資すべき分野を見極め、限られたリソースの中で効果的に施策を実施することがますます重要となっています。

第3章 基本方針と取組方向

1 基本方針と取組方向

- ・ 目標達成のため、観光基本計画で定めた基本方針と取組み方向を踏襲しつつ、各種事業の状況やトレンド等を鑑み具体的なプロジェクトについて見直しを行いました。
- ・ 観光立国推進基本計画（第4次）ではインバウンド回復について言及されています。本市においては本質的な観光を見つめ直すことに主眼を置きインバウンド対応を検討します。
- ・ 中期アクションプランでは、3項目を重点プロジェクトとして位置付け、集中的に経営資源を投下し『新城ツーリズム』を体現することにより観光まちづくりを推進します。

【重点プロジェクト】

① 鳳来東部エリア（宇連川流域）における観光振興

観光資源が集約されたエリアである鳳来東部を本市におけるツーリズムモデル地区とし、新城ツーリズム実践の形を検討します。

② スポーツツーリズムの在り方検討（ビジョン・コンセプトの策定）

スポーツイベント実施期間内のみにとどまらない、収益性と持続性を備え、地域課題の解決へつながる本市におけるスポーツツーリズムの在り方について検討します。

③ 桜淵公園の新たな活用方法の検討

再整備により利便性の向上した桜淵公園を活かすため、水辺の利用等について検討し賑わいの創出と収益性を高める形を検討します。

・ 見直しをする中で、中期アクションプランの期間中におけるプロジェクトの対応方針を成長性や事業の属性（市民サービスの要素の有無）を勘案し分類を行いました。※下表参照

分類	対応方針	対応例
主力事業	① 方針・戦略	成長率と市場シェアが高い観光資源。新しく注目されている観光スポットやアクティビティで、中長期的に戦略を考え積極的に投資を継続する必要があります。
課題事業	② 戦術	成長率が高いが、市場シェアが低い観光資源。積極的な投資が必要であり、将来的に主力事業になる可能性があります。例えば、新しい観光アクティビティやエリアが該当します。
成長ポテンシャル事業	③ 維持	市場成長率は低いが、市場シェアが高い観光資源。伝統的な観光名所や定番の観光ツアーで、安定的なため積極的な投資は不要です。
低収益事業	④ 対処	成長率も低く、市場シェアも低い観光資源。事業の成長が見込めないため、整理して他の観光資源に資金を振り分けることが適切です。

基本方針１ 観光まちづくりとテーマ別観光の推進

【戦略】基本方針と取り組み方向		【プロジェクト】
1 観光まちづくりと着地型観光の推進	1－1 観光まちづくりの推進	①市民向け観光情報の発信
		②観光人材育成プログラム
		③地域計画と連動した観光事業
		④関係団体・事業者との連携促進
	1－2 着地型観光の推進	①第1次産業×観光
		②その他産業との連携
		③ウェルネスツーリズムの推進
		④鳳来東部エリア（宇連川流域）における観光振興【重点】
	1－3 持続可能な観光イベントの実施	①既存イベントの魅力向上のための見直し
	1－4 観光プロモーション活動と多様な情報発信	①観光プロモーションの実施
		②情報発信
2 スポーツツーリズムの推進	2－1 スポーツツーリズムの推進	①スポーツイベントの活用
		②サイクルツーリズムの推進
		③アウトドアスポーツの推進
		④スポーツツーリズムの全体計画（ビジョン・コンセプトの策定）【重点】
3 武将観光の推進	3－1 武将観光の推進	①武将観光の推進
		②地域活動への支援
4 観光資源の組み合わせによるテーマ別観光の推進	1－2③へ統合	

基本方針２ 観光基盤設備の整備

【戦略】基本方針と取り組み方向		【プロジェクト】
1 公園施設の魅力づくり	1－1 公園施設の魅力づくり	①桜洲公園の新たな活用方法の検討【重点】
		②利用ルールの検討
		③その他公園施設の管理
2 観光施設の魅力ある改修	2－1 鳳来ゆ～ゆ～ありいなとその他観光施設	①湯谷温泉及び鳳来ゆ～ゆ～ありいな基本構想の策定
		②民間活力導入・エリアマネジメント可能性調査
	2－2 道の駅もつくる新城	①協定書に定める事項の決定、指定管理者の公募・選定
		②事業計画の推進と適切な維持管理
3 自然景観、文化遺産の保護	3－1 東海自然歩道と登山道	①東海自然歩道の管理
4 観光看板の設置と管理	4－1 既存看板の調査と撤去・更新に係わる方針の策定	①既存看板の調査と管理更新計画
5 安全な駐車場の確保	5－1 観光地の駐車場における交通状況の改善	①観光地駐車場等の現状把握と調査及び対応の検討
6 公衆トイレの維持管理	6－1 公共トイレの活用・管理に係わる計画の作成	①公共トイレの維持管理
7 安定的な温泉供給	7－1 加温配湯施設の施設更新	2－1 ①にあわせて検討

基本方針 3 観光推進体制の整理と連携強化

【戦略】基本方針と取り組み方向		【プロジェクト】
1 観光における一体的な推進体制の整理	1－1 新しい組織体制の構築と自主財源の確保	①観光組織の推進体制の整理と強化
2 広域連携による観光周遊性の向上	2－1 継続的な広域連携とテーマ別の連携	①広域連携
3 専門機関・大学機関との連携	3－1 専門・大学機関の視点導入と連携	①産学連携

第4章 中期アクションプラン各戦略で取り組むプロジェクト

基本方針 1

観光まちづくりとテーマ別観光の推進

戦略 1 1－1 観光まちづくりの推進

概要

- ・観光まちづくりとは、地域が地域資源を活用して地域経済の振興や地域の発展を図ることです。それには市民の協力が不可欠です。地域特性や市民の意見（地域自治区で策定された地域計画等）を尊重し、地域全体で協力し、持続可能な観光まちづくりを目指します。
- ・観光まちづくり推進のため、市民及び事業者の活躍、連携を促進します。
- ・市民及び観光事業者のスキル向上のための取組をおこないます。
- ・市民協働の観光まちづくりによる地域の誇り向上を目指します。
- ・地域や観光事業者、行政の連携により効果的な観光施策を実施します。

中期アクションプラン最終年度（令和８年度）における到達点

- ・観光情報や取組みが市民及び観光事業者に理解されており、地域の誇りが創出されている。
- ・地域や観光事業者、行政の連携により効果的な観光施策が実施されている。

【プロジェクトのフロー】

人材育成と体制の構築

プロジェクト①市民向け観光情報の発信

プロジェクト②観光人材育成プログラム

プロジェクト④関係団体・事業者との連携促進



観光まちづくりの実践

プロジェクト③地域計画と連動した観光事業

戦略 1 1-1 観光まちづくりの推進

プロジェクト詳細

プロジェクト①市民向け観光情報の発信

各種イベントや観光に関する取組を市民と共有し、地域の誇りを創出するため観光情報発信を行い、市民や観光事業者、地域全体が一体となり観光まちづくりを推進します。

〈取り組み例〉

- ・広報ほのか、市政番組いいじゃん新城等による市民向けインナープロモーションの実施
- ・新城市観光プラットフォームの構築
- ・適切な広報媒体の検討

プロジェクト②観光人材※育成プログラム

観光ビジネスの運営、ツアーガイド技術、ホスピタリティなどのスキルを身に着ける機会を提供します。ガイドネットワークを構築し、情報やリソースの共有を行い観光人材が観光振興に携わることができる仕組みとします。次世代の観光人材育成も考え、子供にも本市の観光を理解を促す観光教育を検討します。

※観光人材とは①ホスピタリティ関連従業員（ホテル、レストラン、カフェ、バー等）②観光ガイド③交通機関スタッフ④観光施設スタッフ⑤イベントスタッフ（プランナー、コーディネーター含む）等

〈取り組み例〉

- ・ガイド養成講座、コンテンツ造成講座等、及びガイドスキル向上のための講座を開催。
- ・観光協会が中心となって、歴史、スポーツ等様々なジャンルを包括したガイドネットワークを構築。
- ・お出かけ講座や子供向け観光ガイドの実施。

プロジェクト③地域計画と連動した観光事業

地域の誇りの創出、文化の保存と伝承のため、市民協働の観光まちづくりを推進します。各地域自治区による地域計画と連動した事業を実施します。

〈取り組み例〉

- ・新城市スポーツバイク普及推進（東郷ケッターパーク）
- ・長篠城周辺大のぼり管理業務
- ・観光案内看板の設置更新

戦略 1 1－1 観光まちづくりの推進

プロジェクト詳細

プロジェクト④ 関係団体・事業者との連携促進

統一されたビジョンとミッションや、ブランドアイデンティティの確立及び共有を目指します。
各種イベント等の効果的な実施のため、関係団体や事業者と連携し事業を実施します。

〈取り組み例〉

- ・ ビジョン、コンセプト、観光施策の共有
- ・ オンラインプレゼンスをはじめとしたプロモーションの統一
- ・ イベント実施に係る実行委員会等の開催

戦略 1 1－1 観光まちづくりの推進

実施時期と実施主体

プロジェクト	対応方針	6年度	7年度	8年度
①市民向け観光情報の発信	③維持	●	●	●
②観光人材育成プログラム	③維持	●	●	●
③地域計画と連動した観光事業	③維持	●	●	●
④関係団体・事業者との連携促進	③維持	●	●	●

●：主導的に実施 ○：連携して実施・関与

プロジェクト	市	観光協会	民間事業者	観光関連団体※	市民
①市民向け観光情報の発信	●	○	○		○
②観光人材育成プログラム	●	●	○		○
③地域計画と連動した観光事業	○	○			●
④関係団体・事業者との連携促進	○	○	○	○	

※観光関連団体
実行委員会等

戦略 1 1－2 着地型観光の推進

概要

- ・ 着地型観光は地域体験型観光、地域文化探訪旅行とも言えます。
1次産業や食・温泉・自然をはじめとした観光資源に焦点を当て、テーマ別観光としてウェルネスツーリズムの視点も合わせて検討し、持続可能な観光の一形態として確立します。

中期アクションプラン最終年度（令和8年度）における到達点

- ・ 1次産業の活用による観光プログラムの検討
- ・ その他産業（文化）の活用による観光プログラムの検討
- ・ 地域資源を活用したテーマ別観光商品の検討

【プロジェクトのフロー】

観光プログラムの検討

プロジェクト①第1次産業×観光

プロジェクト②その他産業との連携

プロジェクト③ウェルネスツーリズムの推進

【重点】プロジェクト④鳳来東部エリア（宇連川流域）における観光振興



1次産業・文化・地域資源を活用した観光の確立と
それらの持続可能性向上

戦略 1 1－2 着地型観光の推進

プロジェクト詳細

プロジェクト①第1次産業×観光

1次産業（農林漁業）を活用した観光コンテンツ検討します。

〈取り組み例〉

- ・ 漁業と連携したフィッシングツーリズムの確立
- ・ 林業と連携した森林体験プログラムの検討

プロジェクト②その他産業との連携

新城市特有の産業や食をはじめとした文化など、その他産業と連携して観光コンテンツを検討します。

〈取り組み例〉

- ・ 木材加工や古民家を活用したツアーの検討。
- ・ 地域の食材、料理、食文化を観光の魅力として活用するガストロノミーツーリズムの検討。

プロジェクト③ウェルネスツーリズムの推進

自然環境やスポーツアクティビティ、温泉など、地域資源を活用したウェルネスツーリズムの推進をします。

〈取り組み例〉

- ・ 朝霧湖の利用など、アクティビティを展開するためのフィールドの開拓。
- ・ 各コンテンツを実践する事業者との関係構築。

プロジェクト詳細

【重点】

プロジェクト④鳳来東部エリア（宇連川流域）における観光振興

本市の中でも「湯谷温泉」、「湯谷園地」、「愛知県民の森」、「乳岩峡」、「朝霧湖」、「望月街道」、「大野宿」等、観光資源が集約されたエリアである鳳来東部を本市におけるツーリズムモデル地区とし、新城ツーリズム実践の形を検討します。

〈取り組み例〉

- ・ビジョン、コンセプトの策定
- ・オンラインプレゼンスをはじめとしたプロモーションの統一
- ・モデルツアーの検討
- ・インバウンドの受入れ検討

戦略 1 1－2 着地型観光の推進

実施時期と実施主体

プロジェクト	対応方針	6年度	7年度	8年度
①第1次産業×観光	②戦術	●	●	●
②その他産業との連携	③維持	●	●	●
③ウェルネスツーリズムの推進	②戦術	●	●	●
【重点】 ④鳳来東部エリア（宇連川流域）における観光振興	①方針・戦略	●	●	●

●：主導的に実施

○：連携して実施・関与

プロジェクト	市	観光協会	民間事業者	観光関連団体※	市民
①第1次産業×観光	○	○	○	○	○
②その他産業との連携	○	○	○		
③ウェルネスツーリズムの推進	●	●	○		
【重点】 ④鳳来東部エリア（宇連川流域）における観光振興	●	●	○	○	○

※観光関連団体
実行委員会等

戦略 1 1－3 持続可能な観光イベントの実施

概要

- ・ 新城さくらまつり、新城納涼花火大会、鳳来寺山もみじまつりは、持続可能性を高めながら実施します。
- ・ ニーズの多様化により、従来通りの開催内容での誘客は難しくなっています。
- ・ 持続可能性を高めるための収益構造の見直し、地域及び関連団体との連携、社会的責任の強化（収益還元等）、市民参画の検討が必要です。

中期アクションプラン最終年度（令和8年度）における戦略1の到達点

- ・ 各イベントの収益性向上
- ・ 持続可能なイベント運営の確立

【プロジェクトのフロー】

イベントプログラムの検討

プロジェクト①既存イベントの魅力向上のための見直し



各イベントの収益化及び
持続可能性向上

戦略 1 1－3 持続可能な観光イベントの実施

プロジェクト詳細

プロジェクト①既存イベントの魅力向上のための見直し

新城さくらまつり、新城納涼花火大会、鳳来寺山もみじまつりと、市民はもちろんのこと、来訪者にも愛される、地域の誇り向上につながるようなイベントとしていく必要があります。

各イベントの価値を再構築するとともに、収益性、持続性を持った形で運営できるよう検討していく必要があります。観光イベントの社会的責任を強化し、収益を上げることで地域経済や資源の保護等、地域と観光双方に利益をもたらすツーリズムのあり方検討します。

〈取り組み例〉

- ・各種料金等の見直し
- ・新規プロモーションの実施
- ・各イベントのあり方検討

戦略 1 1－2 着地型観光の推進

実施時期と実施主体

プロジェクト	対応方針	6 年度	7 年度	8 年度
①既存イベントの魅力向上のための見直し	②戦術	●	●	●

●：主導的に実施

○：連携して実施・関与

プロジェクト	市	観光 協会	民間 事業 者	観光関連 団体※	市民
①既存イベントの魅力向上のための見直し	○	●		○	○

※観光関連団体
実行委員会等

戦略 1 1－4 観光プロモーション活動と多様な情報発信

概要

効果的な観光プロモーションを実現するためには、ターゲットオーディエンス※1の理解、魅力的なキヤッチコピー、適切なチャネル※2の活用等が必要です。

従来型のプロモーションと合わせた総合的なアプローチを検討します。

※1 ある広告の目標となる視聴者。製品やサービスに対する潜在顧客を定めたグループ。

※2 ①コミュニケーションチャネル（情報伝達経路）CMやWEBサイト、SNSなど、②販売チャネル（販売経路）③流通チャネル（流通経路）

中期アクションプラン最終年度（令和8年度）における戦略1の到達点

- ・限られたリソースの中で最適なプロモーション活動ができている。
- ・多様なチャネルから最適な組み合わせを検討。
- ・各種チャネルやSNSとの連携が可能で、拡張性の高いWEBプラットフォームの構築及びDX化が推進されている。

【プロジェクトのフロー】

最適な観光プロモーション検討

プロジェクト①観光プロモーションの実施

プロジェクト②情報発信



観光プラットフォームの構築
DXの一環として発展

プロジェクト詳細

プロジェクト①観光プロモーションの実施

従来の出展型を中心としたプロモーションを見直し、観光DXの推進により意味・効果のあるプロモーションを検討します。また、リソースを最適に活用するためデジタルマーケティングの活用などプロモーション戦略を検討します。

〈取り組み例〉

- ・出展型プロモーションの選定及び見直しを行います。
- ・デジタルマーケティングの活用を検討します。
- ・観光DXの推進により、プロモーションチャネルの最適化を図ります。

プロジェクト②情報発信

本市における情報発信は、広報やポスター等紙媒体及びホームページによるものを中心としています。2021年のスマートフォンの世帯保有率は88.6%（（出典）総務省「通信利用動向調査」）となっており、様々な媒体を通じ幅広い層に情報を届けられるようになっていきます。ターゲットを明確にし、情報発信媒体の最適な組み合わせを検討します。

〈取り組み例〉

- ・観光情報を整理し、WEBプラットフォームを構築し情報発信を行います。
- ・WEBプラットフォームを中心に観光DX推進※を図り、EBPMを推進します。
- ・ソーシャルメディアの活用も含め、持続的で効果的な情報発信媒体を検討します。
- ・新城市観光協会及び奥三河観光協議会と連携し、リアルでの情報発信（観光案内）の在り方について検討します。

※観光DXとは、業務のデジタル化により効率化を図るだけでなく、デジタル化によって収集されるデータの分析・利活用により、ビジネス戦略の再検討や、新たなビジネスモデルの創出といった変革を行うものと位置付けられます。

観光庁：https://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kankochi/digital_transformation.html

戦略 1 1－4 観光プロモーション活動と多様な情報発信

実施時期と実施主体

プロジェクト	対応方針	6年度	7年度	8年度
①観光プロモーションの実施	②戦術	●	●	●
②情報発信	②戦術	●	●	●

●：主導的に実施 ○：連携して実施・関与

プロジェクト	市	観光協会	民間事業者	観光関連団体※	市民
①観光プロモーションの実施	○	●			
②情報発信	○	●			

※観光関連団体
実行委員会等

戦略 1 2－1 スポーツツーリズムの推進

概要

- ・これまでの本市におけるスポーツツーリズムの推進は、スポーツイベントの招致を主として取り組んできました。これらは誘客や経済効果で一定の成果をもたらしました。今後、この成果をより大きなものとするためには、その先の観光消費や日常的なツーリズム（スポーツアクティビティの提供）へのアプローチが必要です。
- ・中期アクションプランでは、今までの取組を改善するとともに、スポーツツーリズムを本市における最適な着地型観光や地域体験型観光として提案できるようにし、また、産業振興や市民生活の向上につながるビジョン、コンセプトを検討します。

中期アクションプラン最終年度（令和8年度）における戦略2の到達点

- ・新都市におけるスポーツツーリズムのあり方の検討及びビジョン・コンセプトの策定。
- ・既存スポーツイベントのあり方を見直し。

【プロジェクトのフロー】

既存スポーツイベントの活用・推進

プロジェクト①スポーツイベントの活用

プロジェクト②サイクルツーリズムの推進

プロジェクト③アウトドアスポーツの推進



スポーツツーリズムのあり方検討

【重点】プロジェクト④スポーツツーリズムの全体計画（ビジョン・コンセプトの策定）

戦略 1 2-1 スポーツツーリズムの推進

プロジェクト詳細

プロジェクト①スポーツイベントの活用

観光者向けにスポーツイベントの観戦や参加を含むパッケージの提供等、イベント参加前後の周遊を促す取り組みを検討します。

また、継続開催しているスポーツイベントの開催形態等の最適化を図ります。

〈取り組み例〉

- ・市内で開催される大型イベントの活用
- ・食文化との統合等、他の観光コンテンツと結びつける方法の検討

プロジェクト②サイクルツーリズムの推進

令和8年度に開催される「第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）」において、本市は自転車競技（ロードレース）の開催地に仮決定されています。本大会への機運醸成はもとより、これをきっかけとした本市におけるサイクルツーリズムのあり方を検討します。

〈取り組み例〉

- ・アジア競技大会のテストイベントやサイクルレースイベントの実施。
- ・自転車競技の認知向上や普及に関する取組。
- ・サイクルツーリズムをきっかけに、本市のモビリティ向上について検討。

プロジェクト③アウトドアスポーツの推進

これまで継続してきた、トレイルランニングイベント等を開催（支援）するとともに、開催形態の在り方について検討します。

〈取り組み例〉

- ・奥三河パワートレイル等の実施及び開催形態の検討。
- ・フォトロゲイニング等の実施及び開催形態の検討。

戦略 1 2－1 スポーツツーリズムの推進

プロジェクト詳細

【重点】

プロジェクト④スポーツツーリズムの全体計画（ビジョン・コンセプトの策定）

スポーツツーリズムのあり方について、イベント招致・開催以外のスポーツツーリズムの在り方を本市の観光資源の活用を考慮し検討します。そして、市民生活の向上につながる取組へ繋がります。

〈取り組み例〉

- ・ビジョン、コンセプト、計画等の策定

戦略 1 1－4 観光プロモーション活動と多様な情報発信

実施時期と実施主体

プロジェクト	対応方針	6年度	7年度	8年度
①スポーツイベントの活用	②戦術	●	●	●
②サイクルツーリズムの推進	①方針・戦略	●	●	●
③アウトドアスポーツの推進	②戦術	●	●	●
【重点】 ④スポーツツーリズムの全体計画（ビジョン・コンセプトの策定）	①方針・戦略	●	●	●

●：主導的に実施 ○：連携して実施・関与

プロジェクト	市	観光協会	民間事業者	観光関連団体※	市民
①スポーツイベントの活用	○	○	○		
②サイクルツーリズムの推進	●	○	○	○	○
③アウトドアスポーツの推進	○	○	●		○
【重点】 ④スポーツツーリズムの全体計画（ビジョン・コンセプトの策定）	●	○			

※観光関連団体
実行委員会等

概要

- ・令和5年度放送の大河ドラマの放映もあり、長篠城址史跡保存館等の来場者をはじめとした誘客効果を一時的に発揮しました。
- ・令和7年度には長篠・設楽原の戦い450周年記念が控えており、それをきっかけとした観光消費を創出する必要があります。
- ・長篠・設楽原の戦い450周年記念に係る「長篠合戦のぼりまつり」の開催について検討するとともに、本イベントの在り方について検討していきます。

中期アクションプラン最終年度（令和8年度）における戦略2の到達点

- ・長篠・設楽原の戦い450周年記念を活かした観光消費の創出。
- ・長篠合戦のぼりまつりの開催の最適化。

【プロジェクトのフロー】

長篠・設楽原の戦い450周年記念の活用

プロジェクト①徳川家康をテーマとした武将観光の推進

プロジェクト②地域活動への支援



武将観光コンテンツの収益化及び
持続可能性向上

プロジェクト詳細

プロジェクト①武将観光の推進

本市は徳川家康ゆかりの地や関連する史跡が所在しています。大河ドラマでも取り上げられ認知が向上した中で、武将観光により知的な満足感や楽しみを提供するとともに、観光消費へ繋げられる取り組みを検討します。

戦国絵巻として位置づけられてきた「長篠合戦のぼりまつり」等について、取り巻く環境等を勘案し実施方法や在り方について検討します。

また、各種施策は教育委員会と連携して行います。

〈取り組み例〉

- ・長篠・設楽原の戦い450周年記念の活用
- ・ガイドツアーなど武将観光コンテンツの検討
- ・「長篠合戦のぼりまつり」の実施及び実施方法の検討

プロジェクト②地域活動への支援

市内では歴史観光ガイドが活躍しています。観光協会を中心にガイドネットワークを構築し、武将観光コンテンツとして提供できる仕組みを構築します。

〈取り組み例〉

- ・ガイドネットワークの構築（歴史以外も含む）

戦略 1 3－1 武将観光の推進

実施時期と実施主体

プロジェクト	対応方針	6年度	7年度	8年度
①武将観光の推進	③維持	●	●	●
②地域活動への支援	③維持	●	●	●

●：主導的に実施 ○：連携して実施・関与

プロジェクト	市	観光協会	民間事業者	観光関連団体※	市民
①武将観光の推進	●	●	○	○	○
②地域活動への支援	●	●	○	○	○

※観光関連団体
実行委員会等

基本方針 2

観光基盤設備の整備

戦略2 1－1 公園施設の魅力づくり

概要

- ・ 桜淵公園は令和3年度末に再整備工事が完了し、令和4年度からリニューアルオープンしました。トイレや駐車場、広場等が整備され、家族やグループでの利用も利便性が向上しています。また、公園内には豊川が流れ、水辺を生かしたまちづくりや観光コンテンツの造成が期待されます。
- ・ 公園内でのコンテンツ充実を図るとともに、桜淵公園をはじめとした公園施設の計画的な改修、更新を行います。

中期アクションプラン最終年度（令和8年度）における戦略2の到達点

- ・ 桜淵公園における、新しい豊川（水辺）活用の可能性について検討します。
- ・ 再整備後の桜淵公園の利用ルールを検討します。
- ・ 市民サービス及び観光地としての施設保全及び管理を行います。

【プロジェクトのフロー】

安全確実な公園管理と水辺を利用したまちづくりの検討

【重点】プロジェクト①桜淵公園の新たな活用方法の検討

プロジェクト②利用ルールの検討

プロジェクト③その他公園施設の管理



市民サービスと観光の双方に配慮した
魅力的で機能的な公園へ

プロジェクト詳細

【重点】

プロジェクト①桜淵公園の新たな活用方法の検討

桜淵公園の再整備が完了し整った環境を活かすとともに、新たな観光価値とにぎわい創出のため、豊川（水辺）の利用について検討します。

〈取り組み例〉

- ・水辺を利用したにぎわい創出の可能性調査及びビジョンコンセプトの検討

プロジェクト②利用ルールの検討

再整備後の桜淵公園を利活用するための利用ルールを検討し、事業者が参入できる仕組み等を検討します。

〈取り組み例〉

- ・中央広場へのキッチンカーの出展や、芝生広場でのマルシェの開催等が可能となる仕組みを検討

プロジェクト③その他公園施設の管理

公園施設を安全に使用できるよう、計画的に修繕や改修等を行います。
また、観光課所管以外の施設や廃止施設の利用について検討します。

〈取り組み例〉

- ・計画的な修繕及び管理
- ・所管外施設の活用や廃止施設跡地、基盤整備の検討

戦略2 1－1 公園施設の魅力づくり

実施時期と実施主体

プロジェクト	対応方針	6年度	7年度	8年度
【重点】 ①桜淵公園の新たな活用方法の検討	①方針・戦略	●	●	●
②利用ルール of 検討	②戦術	●	●	●
③その他公園施設の管理	②戦術	●	●	●

●：主導的に実施 ○：連携して実施・関与

プロジェクト	市	観光協会	民間事業者	観光関連団体※	市民
【重点】 ①桜淵公園の新たな活用方法の検討	●	○		○	○
②利用ルール of 検討	●	○		○	○
③その他公園施設の管理	●	○		○	

※観光関連団体
実行委員会等

戦略2 2-1 鳳来ゆ～ゆ～ありいなとその他観光施設 7-1 加温配湯施設の施設更新

概要

・ 鳳来ゆ～ゆ～ありいなは、開業から32年が経過し、施設の老朽化が進んでいます。令和3年度に劣化度調査を実施し、調査結果では早急に大規模改修を実施する必要があると判断されました。

このため、鳳来ゆ～ゆ～ありいなの大規模整備やあり方を湯谷温泉全体の基本構想に盛り込み検討する必要があります。

また、同基本構想では老朽化した温泉設備の更新や、新たな泉源の必要性についても検討することとします。

中期アクションプラン最終年度（令和8年度）における戦略2の到達点

- ・ 湯谷温泉及び鳳来ゆ～ゆ～ありいな基本構想の策定
- ・ 民間活力導入・エリアマネジメント可能性調査

【プロジェクトのフロー】

施設の継続・変更・廃止等の検討

プロジェクト①湯谷温泉及び鳳来ゆ～ゆ～ありいな基本構想の策定

プロジェクト②民間活力導入・エリアマネジメント可能性調査



湯谷温泉及び鳳来ゆ～ゆ～ありいな
の事業目標と戦略的方向性の明示

戦略2 2-1 鳳来ゆ～ゆ～ありいなとその他観光施設 7-1 加温配湯施設の施設更新

プロジェクト詳細

プロジェクト①湯谷温泉及び鳳来ゆ～ゆ～ありいな基本構想の策定

鳳来ゆ～ゆ～ありいな再整備事業を実施する場合は、収益性の確保や市場ニーズの把握等、民間事業者のノウハウを取り入れるとともに、湯谷温泉に求められる役割や、不足する機能の補完など「点から面」への展開を促すため、温泉加温供給施設も含めた、湯谷温泉全体の将来構想として検討することで、多くの課題の解決と地域価値を向上を図り、湯谷温泉の将来像を描く基本構想として策定します。

〈取り組み例〉

- ・ワークショップや、マーケットサウンディングの実施
- ・湯谷温泉審議会や、地域住民、温泉事業者、施設利用者、民間企業等からの意見聴取
- ・基本構想中、加温施設、温泉配管の布設替え及び新泉源の必要性の検討

プロジェクト②民間活力導入・エリアマネジメント可能性調査

(1) 民間活力導入可能性調査

策定された基本構想に基づき前提条件の整理や、民間企業へ施設可能性についてのヒアリングを実施し、事業実施手法について比較、検討を行います。また、財政負担軽減効果について試算、検証を行った上で事業実施方法を決定します。

(2) エリアマネジメント可能性調査

地域のマネジメント活動展開に向けて、主体としての役割を担えるパートナーの選出を検討します。民間活力導入可能性調査の調査結果に基づき、地域マネジメント組織の立ち上げに向けた運営方針、運営目標などを設定します。

〈取り組み例〉

- ・湯谷温泉街民間活力導入・エリアマネジメント可能性調査

戦略2 2－1 鳳来ゆ～ゆ～ありいなとその他観光施設 7－1 加温配湯施設の施設更新

実施時期と実施主体

プロジェクト	対応方針	6年度	7年度	8年度
①湯谷温泉及び鳳来ゆ～ゆ～ありいな基本構想の策定	①方針・戦略	●		
②民間活力導入・エリアマネジメント可能性調査	②戦術		●	

●：主導的に実施 ○：連携して実施・関与

プロジェクト	市	観光協会	民間事業者	観光関連団体※	市民
①湯谷温泉及び鳳来ゆ～ゆ～ありいな基本構想の策定	●	○			○
②民間活力導入・エリアマネジメント可能性調査	●	○			○

※観光関連団体
実行委員会等

戦略2 2-2 道の駅もつくる新城

概要

もつくる新城は、令和5年度6月に来場者1000万人を突破し、観光をはじめ地域の活性化を図る「奥三河観光ハブステーション」としての機能が期待されています。

また、同施設は令和6年度末をもって、当初の指定管理期間の満了を迎えるため、次期指定管理公募・選定について準備を進めていく必要があります。

中期アクションプラン最終年度（令和8年度）における戦略2の到達点

- ・ もつくる新城の次期指定管理者の選定（令和7年度～）
- ・ 適切な維持管理・修繕

【プロジェクトのフロー】

次期指定管理に係る事項の決定

プロジェクト①協定書に定める事項の決定、指定管理者の公募・選定

プロジェクト②事業計画の推進と適切な維持管理



観光プラットフォーム機能の充実
一層の地域経済への寄与

プロジェクト詳細

プロジェクト①協定書に定める事項の決定、指定管理者の公募・選定

先に記載のとおり、令和5年度には来場者1000万人を達成したが、令和6年度には開駅後10年が経過します。老朽箇所の修繕計画、維持管理費の見直しをおこなうとともに、地域経済への波及効果をさらに高めること、また地域観光の拠点としての機能を果たせるよう、協定書に定める事項の検討等、要件定義をしていく必要があります。

〈取り組み例〉

- ・ 指定管理料や維持管理負担金の検討
- ・ 地域経済へ寄与するための事項の検討

プロジェクト②事業計画の推進と適切な維持管理

「奥三河観光ハブステーション」としての機能はもちろん、市内事業者の商品力向上の場とするなど地域経済活性化のための事業計画を推進していく必要があります。

また、施設の老朽化はもちろん、建設当初に想定していなかったバスの乗り入れなどによる、安全管理や利便性向上のため、改修を含め検討していく必要があります。

改修等にあっては、新城市もつくる新城維持管理基金の取り崩しなど、計画的に維持管理を行っていく必要があります。

〈取り組み例〉

- ・ 事業計画の検討及び推進
- ・ 施設内動線の検証
- ・ 計画的な維持管理

実施時期と実施主体

プロジェクト	対応方針	6年度	7年度	8年度
①協定書に定める事項の決定、指定管理者の公募・選定	①方針・戦略	●		
②事業計画の推進と適切な維持管理	③維持	●	●	●

●：主導的に実施 ○：連携して実施・関与

プロジェクト	市	観光協会	民間事業者	観光関連団体※	市民
①協定書に定める事項の決定、指定管理者の公募・選定	●				
②事業計画の推進と適切な維持管理	●	○	○		

※観光関連団体
実行委員会等

戦略 2	3－1	東海自然歩道と登山道
	4－1	既存看板の調査と撤去・更新に係わる方針の策定
	5－1	観光地の駐車場における交通状況の改善
	6－1	公共トイレの活用・管理に係わる計画の作成

概要

- ・東海自然歩道は、本市管内においても年間8万人以上（R04）が訪れ、自然保護をはかりながら四季を通じてハイキングが楽しめるように整備されています。
- ・観光案内看板については、前期アクションプラン期間中に調査及び更新を進めてきました。
- ・駐車場状況改善を含めたオーバーツーリズムの回避については、ピークシフトやレスポンシブルツーリズムなど、地域を尊重しながら引き続き検討する必要があります。
- ・公衆トイレの維持管理にあっては、引き続き機能を維持するとともに、老朽化が進んだ施設については廃止の検討を行っていきます。

中期アクションプラン最終年度（令和8年度）における戦略2の到達点

- ・観光基盤（施設等及び自然景観、文化遺産等）が維持されている。

【プロジェクトのフロー】

東海自然歩道や各施設の維持

プロジェクト3－1 ①東海自然歩道の管理

プロジェクト4－1 ①既存看板の調査と管理更新計画

プロジェクト5－1 ①観光地駐車場等の現状把握と調査及び対応の検討

プロジェクト6－1 ①公共トイレの維持管理



持続可能な観光基盤の維持

戦略 2	3－1	東海自然歩道と登山道
	4－1	既存看板の調査と撤去・更新に係わる方針の策定
	5－1	観光地の駐車場における交通状況の改善
	6－1	公共トイレの活用・管理に係わる計画の作成

プロジェクト詳細

プロジェクト 3－1 ①東海自然歩道の管理

・前述のとおり東海自然歩道は、本市管内においても年間8万人以上（R04）が訪れるとともに、これを活用した大規模なトレイルランニングのイベント等が開催されています。

引き続き、トレッキング、ハイキング、トレイルランニング等に利用できるよう管理を行っていきます。

〈取り組み例〉

- ・東海自然歩道パトロール員による適切な管理
- ・持続的な維持管理手段の検討

プロジェクト 4－1 ①既存看板の調査と管理更新計画

前期アクションプランから引き続き既存看板の調査を行うとともに、地域と連携した管理更新を行います。

〈取り組み例〉

- ・調査による劣化看板の撤去・更新等の検討及び計画の策定。

プロジェクト 5－1 ①観光地駐車場等の現状把握と調査及び対応の検討

ピーク時の観光関連駐車場等の状況を把握し、ピークシフト、分散型観光、事前予約等の検討を行います。

〈取り組み例〉

- ・効果的なプロモーションによる分散や、混雑情報の発信方法等の検討。

戦略 2	3－1	東海自然歩道と登山道
	4－1	既存看板の調査と撤去・更新に係わる方針の策定
	5－1	観光地の駐車場における交通状況の改善
	6－1	公共トイレの活用・管理に係わる計画の作成

プロジェクト詳細

プロジェクト 6－1 ①公共トイレの維持管理

公共トイレにあつては、引き続き現状把握に努めるとともに、利用頻度の低いもの、老朽化が著しいものについては、廃止を検討していきます。

また、原状に引き続き外部委託を継続し、適正な維持管理に努めていきます。

〈取り組み例〉

- ・ 廃止等の検討
- ・ 持続的な維持管理手段の検討
- ・ 定期的な維持管理

- 戦略2 3－1 東海自然歩道と登山道
 4－1 既存看板の調査と撤去・更新に係わる方針の策定
 5－1 観光地の駐車場における交通状況の改善
 6－1 公共トイレの活用・管理に係わる計画の作成

実施時期と実施主体

プロジェクト	対応方針	6年度	7年度	8年度
3－1①東海自然歩道の管理	③維持	●	●	●
4－1①既存看板の調査と管理更新計画	③維持	●	●	●
5－1①観光地駐車場等の現状把握と調査及び対応の検討	③維持	●	●	●
6－1①公共トイレの維持管理	③維持	●	●	●

●：主導的に実施 ○：連携して実施・関与

プロジェクト	市	観光協会	民間事業者	観光関連団体※	市民
3－1①東海自然歩道の管理	●		○		○
4－1①既存看板の調査と管理更新計画	●	○			
5－1①観光地駐車場等の現状把握と調査及び対応の検討	●	○			
6－1①公共トイレの維持管理	●				

※観光関連団体
実行委員会等

基本方針 3

観光推進体制の整理と連携強化

戦略 3 1－1 観光組織の推進体制の整理と強化
 2－1 継続的な広域連携とテーマ別の連携
 3－1 専門・大学機関の視点導入と連携

概要

- ・令和5年6月、新城市観光協会是一般社団法人へ組織移行され自律した「地域の総合商社」へと舵取りがされました。
- ・すでに観光地域づくり法人として活動している一般社団法人奥三河観光協議会に続き、令和5年5月には愛知県東三河広域観光協議会も、一般社団法人ほの国東三河観光ビューロに組織移行され、同年9月からは観光地域づくり法人として活動しています。
- ・観光組織と市がビジョンの共有や役割分担の明確化を図り、観光による地域の発展を進めていく必要があります。
- ・また、産学連携を通じて新たなアイデアや市場動向の把握などに努め、環境や社会的な側面を考慮した持続可能な観光推進を目指します。

中期アクションプラン最終年度（令和8年度）における戦略2の到達点

- ・市、観光協会やDMOが連携し、自主財源の確保を含め最適な構造や戦略が検討されている。
- ・産学連携により、持続可能なアイデアや関係人口等が創出されている。

【プロジェクトのフロー】

市、及び観光協会等関係者における推進体制の整理

プロジェクト1－1①観光組織の推進体制の整理と強化

プロジェクト2－1①広域連携

プロジェクト3－1①産学連携



効率的かつ効果的な観光振興

- 戦略3 1－1 観光組織の推進体制の整理と強化
 2－1 継続的な広域連携とテーマ別の連携
 3－1 専門・大学機関の視点導入と連携
-

プロジェクト詳細

プロジェクト1－1 ①観光組織の推進体制の整理と強化

市、新城市観光協会、奥三河観光協議会において、観光案内業務等、重複する業務の整理をおこなうなど、一体的な取り組みができる関係を構築する必要があります。限られたリソースを各々が果たすべき役割を明確にすることで最適化を図ります。また、新城市観光協会や奥三河観光協議会が自主財源確保のために、体制構築及び販売できるコンテンツ等の検討を行います。

〈取り組み例〉

- ・観光案内業務の統合。
- ・観光プラットフォーム構築による、情報発信の一元化。
- ・収益事業の構築。

プロジェクト2－1 ①広域連携

一般社団法人ほの国東三河観光ビューローでは、マーケティングの強化、インバウンドマーケットの研究、東三河観光のブランディング（食のブランド化、アウトドアスポーツツーリズム等）などが推進されています。

また、愛知県はあいち観光戦略2024-2026(仮称)において、『「さすが」と言いたくなる「観光県・あいち」』を目指す姿と掲げ、地域資源の観光コンテンツ化などを基本方針に掲げています。

本市取組の強みを活かすことのできる広域的な取り組みを活用し、スケールメリットを享受できるよう連携を図ります。

〈取り組み例〉

- ・東三河アウトドアツーリズムとの連携
- ・愛知県観光デジタルマーケティング推進事業の活用
- ・愛知県の公式観光サイト「Aichi Now」の活用

（2022年全国都道府県公式観光情報サイト閲覧者数12位：出典：公益社団法人日本観光振興協会、株式会社ヴァリュース「2022年観光関連サイト推計閲覧者数ランキング」）

- 戦略 3 1－1 観光組織の推進体制の整理と強化
 2－1 継続的な広域連携とテーマ別の連携
 3－1 専門・大学機関の視点導入と連携
-

プロジェクト詳細

プロジェクト 3－1 ①産学連携

観光における産学連携は、人材の育成や地域の活性化に向けて重要な要素のひとつです。異なる分野から専門的な知見をもって、より持続的で発展的な観光振興及び地域活性化推進を行います。また、学生との交流等により関係人口の創出へも繋がります。

〈取り組み例〉

- ・観光をきっかけとした地域課題解決のための実証実験の受入れ（ライドシェア等）。
- ・学生参画プログラムの提供による交流人口の創出。
- ・AIカメラを利用した人流データの収集・分析等による観光DXの推進

- 戦略3 1－1 観光組織の推進体制の整理と強化
 2－1 継続的な広域連携とテーマ別の連携
 3－1 専門・大学機関の視点導入と連携

実施時期と実施主体

プロジェクト	対応方針	6年度	7年度	8年度
①観光推進体制の整理と連携強化	②戦術	●	●	●
②広域連携	②戦術	●	●	●
③産学連携	②戦術	●	●	●

●：主導的に実施 ○：連携して実施・関与

プロジェクト	市	観光協会	民間事業者	観光関連団体※	市民
①組織の見直しと自主財源確保の仕組みづくり	○	○		○	
②広域連携	○	○		○	
③産学連携	○	○			

※観光関連団体
 実行委員会等

第5章 アクションプランの推進にあたって

1 アクションプランの推進体制

- 本アクションプランの推進にあたっては、「新城市観光基本計画推進委員会」に諮りながら適切な管理を行います。